

# Nara Women's University

## 万葉植物園

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2015-09-25 キーワード (Ja): 植物学, 植物生態学, 奈良, 万葉植物園 キーワード (En): 作成者: 小清水, 卓二 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10935/4084">http://hdl.handle.net/10935/4084</a>

昭和四十八年に関西自然科学研究会の創立三十周年を記念して、近鉄沿線の天然記念物の所在地図と解説とを添加した大型の図表を刊行したが各方面から好評を得た。それ以来早くも創立四十周年を控え、二十世紀も八十年代に入り、昭和も五十五年という記念に相応しい時となっている。そこでこれを機会にこれまで現地解説をされた各先生方の貴重な解説を要約して、時代或は地域別にし、携帯に便利な小冊子とし、今後次々と刊行する予定である。

初刊は、先ず歴史の重みがあり、あたかも公園設定百周年にも当る奈良を取材とする。



昭和二年頃から日本文化特に天平文化の宣揚が盛になり、日本人の文化遺産として貴重な古典万葉集の研究が脚光を浴びてきた。

この研究には、当時の社会生活を始めとしてあらゆる人間の営みの推考と実証とが重要な課題であり、特に集中の千五百余首の中に百数十種類の植物が、巧妙な意味を以て詠じ込まれ、万葉集の生命とも云うべき妙味と体系とをかもし出している。

いみじくも万葉集研究の権威と仰がれた佐佐木信綱博士を始めとして

多数の識者はこれに注目して、万葉集に縁故の深い奈良の地に先ず万葉

植物園と銘をうった日本嚙矢の植物園を作り、そこに万葉集に関係ある植物を網羅して植栽し、研究の資に供すこととなり、昭和七年に開園の運びとなった。

この植物園は二ヘクタール足らずで、広くはないが古色蒼然として境界さえ忘れさせる春日の杜の中にたたずんでいて、恰も深山に徜徉する感が湧く。

造園は、大屋靈城氏の設計により、中央に大きな池を配し、平城、平安時代の造園の手法を参酌して周遊道路の一面に百数十区域の植栽場所を作り、その付近に二百八十余種類の植物が植えてある。もともと万葉植物の種類数は、限定すると、百六十余種類に過ぎないが、これまで多数の研究者によってどの種類であるかを確定し難いものがある。

この園では、独断をさけて、これまで考証されてきたいろいろの植物の種類をできる限り一区域に蒐集して、見る人をして自由に再考証、再検討し得るように仕向けてある。

## 万葉植物園

小清水 卓二



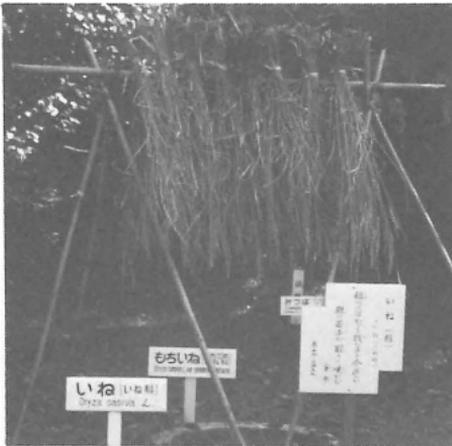
万葉植物は、何れも当時の社会生活と密接な関係をもち、その名称や実物が一般世人に熟知されているような種類を選んでゐる。例えば、薬用・染料・食用・繊維用・木材用などが圧倒的に多く、単に觀賞用に過ぎないような稀有植物の数は寥々たるものである所以がよくわかる。

歌詩の作者は、これらの取材された植物の形態や、生態などを実際によく認識して、その真髓をつかみ、現代の科学の観点に照らしてみても、妥当性をもち、作者の意志表現に現実的な深長さをば、端的に喚起するのに役立つてゐる。

万葉集研究の学者達は、歌詩の妙味とその体系の美しさは、植物に託して表現をこまやかにしている枕詞が源泉となり、歌の生命ともなつてゐるとしている。

例えば、「み芳野の青根が峯のこけむしろ誰か織りけむ経緯なしに(一一二〇)の如き歌の「こけむしろ」の如きは、平地や浅山の樹木に着生する「ウ

メノキゴ」や「スギゴケ」の如き「こけ」ではなく、青根が峯のような高山や深山の古い樹の枝に古い布が垂れさがつたように着いている「ミヤマサルオガセ」の如き地衣類を想像してこの歌を詠じると、おのずから霧深い高山の樹林にたたずんでいる感を湧き起し



万葉植物園

て、作者の気分をよく理解し得るよ  
うに思う。

園内の植栽の一区域毎にそれぞれの  
歌詞に出ている植物名と、現代の植物  
呼名とを立札で標示し、更にその植物  
と特に関係のある集中の歌詩一首を新  
訓万葉集によってかかげてある。

万葉植物の種類は、前述のように人生  
に有用な植物が大多数で、単に美的観  
賞用の植物は少いので、一般植物園のよ  
うに華美ではなく、全部の観賞を一時  
に満足させることは到底できないが、春  
夏秋冬の植物の変化につれて、それぞ  
れの集歌を通じて鑑賞するならば、いか  
なる季節にも淋しさを感じることはない。

植栽不可能な海藻類の如き植物は、  
何れ参考館の造営によってこれを補  
う予定である。

